

掲示板 平成22(2010)年に刊行された佐渡関係の主な出版物

書名・雑誌名、著者・編者名、版元の順です。

- ・佐渡短歌歳時記 第5集、佐渡短歌懇話会、佐渡短歌懇話会
- ・中興乃名所あれこれ、中興史の会、中興史の会
- ・佐渡加茂歌代幕末小誌余話、大島利良、大島利良
- ・豊田を歩いて見よう、豊田誌研究会、豊田誌研究会
- ・まると佐渡ハンドブック 佐渡観光・文化検定公式ガイドブック、佐渡観光推進戦略会議 / 佐渡観光・文化検定実行委員会、新潟日報事業社
- ・佐渡の原生林・霧が育てた森(写真集)、佐渡市、佐渡市
- ・日本鋳金家協会創立百周年記念パネル展佐渡 記録集、日本鋳金家協会創立百周年記念パネル展佐渡実行委員会、日本鋳金家協会創立百周年記念パネル展佐渡実行委員会
- ・たらい舟 平成21年度たらい舟職人養成講座建造記録、小木たらい舟製作技術保存会、小木たらい舟製作技術保存会
- ・佐渡の海村風土記一片野尾誌一、片野尾郷土誌刊行委員会、片野尾郷土誌刊行委員会
- ・佐渡金銀山 佐渡金山遺跡(北沢地区)旧佐渡鉱山工場群跡発掘調査報告書 佐渡金銀山遺跡調査報告書13、佐渡市世界遺産推進課・佐渡市教育委員会、佐渡市世界遺産推進課・佐渡市教育委員会
- ・佐渡金銀山 鶴子銀山遺跡分布調査報告書 佐渡金銀山遺跡調査報告書14、佐渡市世界遺産推進課・佐渡市教育委員会、佐渡市世界遺産推進課・佐渡市教育委員会
- ・『下久知郷土史編さん委員会たより 三号』、下久知郷土史編さん委員会 粕谷與志春、下久知郷土史編さん委員会
- ・『佐渡・越後文化交流史研究』第10号、新潟大学大学院現代社会文化研究科 新潟大学人文学部 プロジェクト
- ・『佐渡金銀山だより』Vol.1～2、新潟県・佐渡市、新潟県・佐渡市
- ・『佐渡郷土文化』No.122～124、山本修巳、佐渡郷土文化の会
- ・『島の新聞』第43号～第52号、島の新聞社(長野雅子)、島の新聞社
- ・『佐渡学センターだより』第1号、佐渡市教育委員会文化振興室 佐渡学センター
- ・『平成21年度 佐渡市教育委員会 佐渡学センター年報』創刊号、佐渡市教育委員会 佐渡学センター

○企画展「島の原風景～第1回近藤福雄賞写真コンテスト入賞作品展～」のご案内

佐渡国小木民俗博物館で「島の原風景～第1回近藤福雄賞写真コンテスト入賞作品展～」を開催しております。大正から昭和にかけて佐渡の風景や風俗をガラス乾板に残した故近藤福雄氏。その業績をたたえと共に、氏の志を引き継ぎ写真文化の発展を願い平成10年から5回にわたって開催された「佐渡国ビエンナーレ近藤福雄賞写真コンテスト」。今回は第1回コンテストの入賞作品を展示し、佐渡の風景や風俗の原点を振り返ります。大勢の方のお越しをお待ちしております。

日 時：平成22年12月1日(水)～28日(火) 午前8時30分～午後5時まで

会 場：佐渡国小木民俗博物館 3年生教室内 入場料：大人500円、小人200円

(問) 佐渡国小木民俗博物館 TEL(0259)86-2604

編集後記 9月より新しくセンター所長として、渡邊剛忠所長をお迎えしました。巻頭言にもありますように、佐渡学センター平成22年度業務に、新しく佐渡市がジオパークに取り組む準備が加わりました。着任された渡邊センター所長は、文化面はもとより地質学に優れた見識を持たれた方であり、ジオパーク推進にとって極めて力強い原動力となると所員一同期待し、その着任に

喜びました。ジオパーク推進事業が新しく加わったこともあり、この佐渡学センターだより第2号は、結果として自然科学分野の内容が多くなりました。佐渡学センターは、歴史と文化だけでなく「佐渡学」として幅広い分野に取り組む組織であります。これからも、スペースの関係もありますが、「佐渡学」の多様な分野にかかわることを、随時、紹介してまいりたいと思います。

発行 佐渡学センター(佐渡市教育委員会 社会教育課)

〒952-0021 新潟県佐渡市秋津1596 両津郷土博物館内 電話 (0259)23-2100 FAX (0259)23-4820

ホームページ <http://www.city.sado.niigata.jp/sadobunka/denbun/>

佐渡学センターだより

佐渡学センター
(佐渡市教育委員会社会教育課)
2010年12月1日(水)
第2号

「大地の遺産」の保存と活用

佐渡学センター 所長 渡邊剛忠

夏の猛暑が長引いた影響で、今年の紅葉は例年になく遅れていた。ようやく山々が彩り始めた11月上旬、友人家族と「もみじ刈り」に出かけた。

絵画や写真では、味わうことのできない原色の佐渡の紅葉の美しさに感動すると共に、改めて佐渡の自然のすばらしさを実感した一日であった。

今年度、佐渡学センターでは、佐渡固有の歴史・文化や自然などの調査・研究及びその発信を進める一方、新たに市立両津郷土博物館にジオパーク準備室を設置した。佐渡を「大地の公園」として内外に発信をするための計画・準備が進められている。

地球科学的に重要な地質や地形、景観などを保護し、見て、触れて、確かめて大地や自然と人間の関わりを知る。学校教育や生涯学習を通して学ぶとともに、ジオツーリズム(大地や自然と親しむ観光)により地域の活性化を図ることが、ジオパークの考え方である。

「佐渡金山」と海底火山でできた枕状溶岩が広く分布する「小木海岸」が、2007年日本地質百選に指定されている。佐渡は他にも次のようなジオパークとしての魅力がたくさんある。

- ・4億年の歴史を秘め、1500万年にわたり大陸から離れて日本海の形成に触れることのできる島
- ・暖流に洗われ、日本海の荒波が作る雄大な海岸美に出会える島
- ・南限・北限の植物や杉の原生林・天然杉、島固有の動植物、特別天然記念物のトキの棲息する島
- ・環境に優しい生物多様性の島

また、これまで佐渡市は、「金と銀の島、佐渡一鉱山とその文化」として世界文化遺産登録を推進してきた。今年の10月、国の文化審議会において「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」という新しい名称で、単独で世界文化遺産暫定一覧表に記載することが決定された。

多くの児童・生徒や市民の皆さんが、佐渡の宝である鉱山の地質や成り立ちを知り、誇りに思うことによって世界文化遺産登録を確かなものにしていきたいものである。

佐渡学センターでは、こうした「大地の遺産」の保存と活用の課題にも、新たに取り組んでいる。成功のキーワードが「参画と協働」と信じて……。



写真だより

波蝕罅穴群は、相川地区戸中の平根崎海岸にみられます。波打ちぎわにある岩盤の上にあった礫が、強い波浪をうけて、波によっておこる渦巻きにより、激しい浸蝕がおこなわれてくぼみが生じます。この中にさらに礫などが落ち込み、浸蝕、研磨が早められて、直径数十cmから、数mにおよぶ見事な円形のくぼみ(罅穴)が形成されたもので、波浪の営力を知る貴重なものです。また、波蝕罅穴群のある大斜面の海岸は石灰質砂岩(下戸層)の岩盤で、よく見ると貝化石がたくさん見られます。



国指定天然記念物「平根崎の波蝕罅穴群」
指定年月日 昭和15年7月12日

相川郷土博物館の紹介

相川郷土博物館は、相川小学校80周年記念事業として収集した歴史・鉱山・民俗資料を展示するため、鉱山縮小によって空いた鉱山事務所を利用して昭和31年に開館した博物館です。

博物館の特徴である建物は、奥の二階建物(別館)が明治時代の旧宮内省御料局佐渡支庁で、手前の平屋建物(本館)が昭和初期の鉱山事務所跡です。今でも建物に使われている瓦には菊の紋が入っており、皇室財産・旧宮内省御料局佐渡支庁であったことを示しています。

館内の展示物は、本館展示室に鉱山関係資料(鉱山労働の様子・道具・生活)を展示し、特に水上輪で水を汲み上げる体験はとても人気があります。歴史に興味のない方も鉱山最後の鉱石から取り出した金銀のインゴットには驚いています。別館展示室の一階・二階には貴重な発掘調査の出土遺物等の考古資料や民俗資料などを展示しています。そのほか有田記念館では旧相川町出身の故元外務大臣有田八郎氏の遺品など貴重な歴史資料を展示し、本館展示室内部を改装して増築した特別展示室には旧相川町出身の人間国宝故三浦小平二氏の作品を展示しています。現在は公開をしていますが、博物館奥に旧



相川郷土博物館

第四銀行を移築・活用した文書館もあります。

博物館の調査研究業務としては仕事着・民具の収集品のうち紡織関係品を整理・調査し、「佐渡・海府の紡織用具と製品」として542点が国の重要有形民俗文化財の指定を受けています。平成6年に佐渡金山遺跡が国指定史跡となったとき、旧佐渡支庁の相川郷土博物館も指定されました。指定文化財としては県指定文化財「川上家文書(寄託)」ほかに佐渡市指定文化財も所有しています。建物が古く、特に遊女の展示などは修学旅行の小学生に怖がられることもありますが、皆様も鉱山の歴史に触れてみませんか。(山口忠明)

文化財散歩道

両津地区 久知河内と長安寺

久知川の下流域に久知河内のムラがあり、川筋の両側に集落が形成されている。左岸にある真言宗の長安寺は文化財の宝庫として知られ、木造阿彌陀如来坐像と銅鐘の重要文化財をはじめ、市の指定文化財も数多い。天長8(831)年の開基と伝えられているが、当時は「天長寺」と称する天台宗の学問寺であった。頭塔(たっちゅう)の十二坊がかつて村内に散在していたが、近世には還俗し、久知河内村の草分け的な長百姓となった。久知河内は「長安寺村」と称しても不思議ではないほど、ムラの歴史の中で長安寺との関わりが深い。

長安寺には、元禄10(1697)年に記された絵図が伝わっている。長安寺の所領である境内や周辺に散在する「阿彌陀堂林」と、下久知村大平の「御林」の境界を朱線で明示した絵図で、末尾には奉行所地方役の奥書がある。十二坊の所在も記され、境内の建物配置も現在と同じであることがわかる。ただし、重文の阿彌陀如来像を安置していた阿彌陀堂は、昭和38年頃に鉄筋コンク

リート造の宝蔵庫に姿を変え、阿彌陀像の須弥壇だけが本堂の一角に現存している。

なお、明治34年刊行の『越佐實鑑』掲載の長安寺境内図では、現在の本堂が「客殿」、阿彌陀堂が「本堂」として記されている。

過疎や高齢化が進む中、文化財の保存に悩む久知河内。30戸程の小さな集落ではあるが、近年は川の上流がホテルの名所として知られ、トキとの共生事業など、環境や文化による地域おこしに取り組んでいる。(野口敏樹)



長安寺絵図(境内部分)

ジオパーク講座「偏光顕微鏡の作成」(第4回内容)

佐渡ジオパークを準備するにあたり、案内者がこの程度の説明をすればよいのかを実際に確かめるため全10回のジオパーク講座を計画し実行している。この講座は野外で実物をまえにして実施し、全10回で佐渡島の生い立ちを実感してもらえるように計画した。野外で地層・地質を理解してもらうためには岩石の基礎的知識が必要です。講座では岩石を顕微鏡で観察するための試料(岩石薄片という)を参加者全員が作成し、さらにそれを観察するための顕微鏡(簡易型偏光顕微鏡という。図3)も参加者全員が作成した。この簡易型偏光顕微鏡は¥400程度の安価で作成できる。これを使って普通のデジタルカメラを使って写した薄片写真が図12~13である。十分すぎる性能を発揮し、参加者にも好評であった。

購入した材料はルーペ(図10)、偏光フィルム(図

7~9)で、あとは使いふるしのフィルムケースと塩ビ管である。フィルムケースを2分し(図6)、一方にルーペを分解したレンズと偏光フィルムを取り付ける(図5・6)。もう一方の残ったフィルムケースの底に穴をあけ偏光フィルムを固定する(図5)。これを塩ビ管で作った薄片台(図4b)に取り付け完成である。観察のポイントは明るい光源で使いことである。三脚に固定できるようなネジをつければさらに使い良くなる。

図12・13のように、岩石の細かな組織まで確認でき、これが火山岩であることの確認ができる。これらは、岩石入門に非常によい教材で、参加者全員が岩石入門を卒業できた。これら作業で実物の前に立ったときの理解が一段と深まり、ジオツアー(地質と地形の見学小旅行)の感激が増すことと思う。

(神蔵勝明)

ジオパーク講座 簡易型偏光顕微鏡の制作

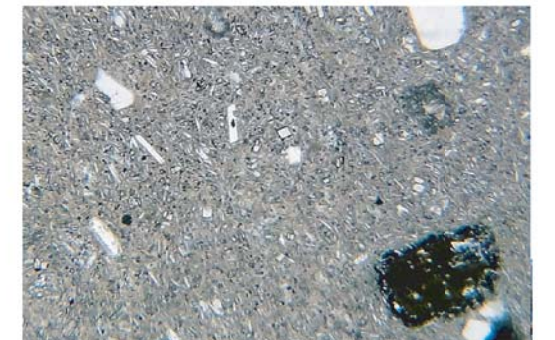


図12 安山岩(旧両津市宇賀神さん、オープンニコル)

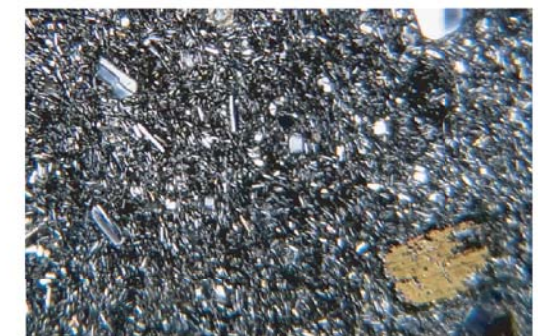


図13 安山岩(旧両津市宇賀神さん、クロスニコル)13

ジオパーク講座の内容

- 第1回 金北山はなぜ高いのか。(講義)
- 第2回 小木地震(1802年)と隆起した波蝕台を見よう。(巡検)
- 第3回 岩石の薄片をつくり顕微鏡で見てみよう。(実習)
- 第4回 簡易型岩石顕微鏡を作ろう。(実習)
- 第5回 日本海の変遷を地層からさぐる。(巡検)
- 第6回 戸地海岸~平根崎で総合実習をしよう。(巡検)

- 第7回 鷲崎~関で佐渡島の基盤岩類を観察しよう。(巡検)
- 第8回 両津夷・湊は砂州の上のまちだ。(巡検)
- 第9回 日本海の誕生や佐渡島の誕生を考えよう。(講義)
- 第10回 中山層の珪藻質泥岩って?珪藻化石を顕微鏡で見てみよう。(実習)

※講義・実習=両津郷土博物館(第10回のみ理科教育センター) 巡検=マイクロバス利用